



Steel Land

弧を描くように天井を左右に渡した鉄骨と一面ガラス張りが印象的な超先端イメージの空間。東京国際フォーラムの顔、「ガラスホール」

集いの鉄 ～東京～

丸の内の旧都庁跡地にこの春、大型国際会議場「東京国際フォーラム」が開館した。丸の内のオフィス街・有楽町・銀座の商業地域の境界線上という立地条件にありながら、その姿は公共の動線を妨げずに悠然と存在する。

鉄骨をふんだんに使用した個性的な形の屋根に、一面ガラス張りの巨大な吹き抜け空間は、都会の洗練された景観にあってとりわけ人の目を引く斬新なデザインだ。

東京の中心地に新たに誕生したランドマーク、東京国際フォーラムにセマッタ。

鉄の絶景

scape.



斬新なデザインながら、
都会の景観にマッチする外観



ライトアップされ、
夕陽に映える
東京国際フォーラム

美しさと機能性を兼ね備えた コンベンションセンター

東京国際フォーラムはJR東京駅・有楽町駅および地下鉄有楽町駅を最寄り駅とし、東京駅から徒歩5分、有楽町駅からはJR・地下鉄とも徒歩1分という圏内に位置している。JR東京駅・地下鉄有楽町駅とは地下1Fのコ

ンコース（中央広場）でも連絡されており、立地条件やアクセスのよさはいうまでもない。

地上から建物に近づくとまず目に飛び込んでくるのは、東京国際フォーラムのシンボル空間、「ガラスホール」である。1枚の鳥の羽のようなデザインをJR線のカーブに沿って配した、全面ガラス張りの個性あふれる空間だ。周辺に建ち並ぶビル群の隙間からふいに現れる透



座席数、5,012席を誇る多目的ホール、ホールA

明な空間は、一瞬人の目に斬新な驚きを与えるが、実はそのスマートな趣が都会の喧騒に見事にマッチしている。天井には幾重もの層のように数多くの鉄骨が左右に渡され、その鉄骨使用量は3万6千トンに達するという。天気の良い日には、全長207m、高さ約60mのこの巨大な吹き抜け空間に、陽光が燦々と降り注ぐ。

ガラスホール脇にはABCD、4つのブロックにわかれたホール棟が連なっている。なかでもA棟にあるホールAは東京国際フォーラム中最大のホールで、5,000を超えるその座席数は世界でも有数といわれる。8カ国語同時通訳システム、ハイビジョン対応の400インチ大型プロジェクタ、音響設備や舞台機能など、国際会議をはじめコンサートやさまざまな舞台イベントに対応可能な設備を整えている。またB棟には平土間形式のオーブ

ンスペースで、舞台や客席を自由に配置できるホールB、C棟にはコンサートホールシェーパーと呼ばれる特殊な音響反射板をはじめ、音楽ホールとしての理想を追求したホールCもある。D棟にあるホールDは引き出し式の座席が設置されるなど、ユーザー側のアイディアひとつでフレキシブルな利用方法が可能な個性的空間だ。

館内にはこのほか、厨房施設を完備したレセプションホール、合計34室ある会議室、16面マルチビジョンなどの諸施設も完備される。地下1～2Fに位置する展示ホールは、5,000m²もの広大な面積を持ち、地下1Fのコンコースからもホール内部が見える作りになっているため、通行する人々すべてに展示内容を自然にアピールできる。またこれらすべての施設はAVセンターを中心に、光伝送およびケーブル伝送で結ばれている。このAVネットワークを活用すれば、ホールをはじめとする諸施設すべてを映像および音声情報で結び、館内全体に一体感をもたせた利用も可能だ。さらに特徴として、ホール全体で2万3千トンにもおよぶ鉄骨構造のインナーボックスを、アウターボックスで覆う形で建物を造る特殊な二重構造＝「ボックス・イン・ボックス」を起用することで、ホール内部は完全な遮音を実現した。

都会に似合うスマートさと機能性をあわせ持つ東京国際フォーラム。国際会議に、展示に、イベントに、コンサートにと、今後の活躍の場は広い。

[取材協力・写真提供／東京国際フォーラム]

～博物館探訪～ (第2回)

釜石市立 鉄の歴史館



岩手県釜石市にある鉄の歴史館は、わが国の近代製鉄業の礎を築いた大島高任の偉業を称え、後世に永く語り継ぐべく建てられた、鉄にまつわる総合資料館である。

かつて水戸藩で反射炉の操業に成功した大島高任はより良質の鉄を求め、南部藩の許可を得て釜石に洋式高炉を築造。安政4年(1857年)12月1日、銑鉄の製造に成功したその功績は「鉄の記念日」として今に伝えられている。

鉄の歴史館は昭和60年7月にオープン。平成5年には展示面積を2倍以上に増築してリニューアルオープンした。展示構成は①時代を翔る鉄②鉄文化の黎明③近代製鉄の発

進④製鉄産業と釜石⑤心の中の鉄⑥鉄と豊かなくらし⑦鉄と遊ぶ、などバラエティに富んでいる。豊富な資料・コンピュータ・レーザー光線による最新の映像設備など、さまざまな方法で鉄産業の歴史や鉄に関する知識に触れることができる。なかでも釜石の橋野三番高炉の1/20模型に、最新の立体映像を組み合わせ高炉操業の様子を紹介する展示物は、そのリアルな映像で訪れる人々に人気を博している。

また3・4Fスペースには平成4年7月に釜石市を主会場として開催された「海の博覧会」を機に、フランスのディーニュ市から送られたアンモナイトの壁レプリカ(高さ12m、幅16m)も併設展示されている。これは同市の地層の一部で1億9500万年前に海底に堆積してできたアンモナイトを実際に使用して作られ、世界で初めて公開された貴重なものだ。鉄に関する資料や展示と合わせて、神秘性に満ちたアンモナイトの壁レプリカも一見の価値がある。(JR東日本釜石駅よりバス7分・観音入口下車、徒歩3分)

[取材協力・写真提供／釜石市役所]